

第2章 景観特性

1. 平塚市の概況

<位置と地勢>

平塚市は、神奈川県のおよそ中央南部に位置し、面積は 6,788ha です。地形は、相模湾に面し、海岸線から西北に広がる扇形で、市域は相模低地、湘南砂丘地及び大磯丘陵地等にわかれています。背後には丹沢山麓を控え、西に富士箱根連山を遠望する、四季を通して温暖な気候に恵まれています。

<市街地の発展>

市街地は、江戸時代に「中原御殿」ができ、東海道に平塚宿がおかれたのを始まりとして、明治時代に東海道本線の開業により、町の中心は停車場のある平塚新宿へと移転し、発展が始まりました。その後、日本火薬製造会社（のちの海軍火薬廠）をはじめとする工場立地が始まり、人口増加をもたらしました。

また、相模川河口の須賀湊は、海運・相模川舟運による物資の集散地として発展し、江戸時代には、「須賀千軒」といわれるなど、相模国中央部の経済の要衝として賑わいました。

太平洋戦争中の空襲で、軍需工場を含む中心部 314ha が焦土となりましたが、戦後の復興土地区画整理事業等により、現在の都市基盤が形成されました。

現在の市街地は、J R 東海道本線平塚駅を中心に商業・業務機能が集積し、これを囲むように住宅地が広がり、相模川沿いの市街地には工業団地が広がっています。近年は、市西側の市街地外縁部などに住宅地の広がりが見られます。

<人口及び市域>

平塚市の人口は、戦後一貫して増加し続けてきましたが、ここ数年は増減を繰り返しながら、ほぼ横ばいとなっています。平成 20（2008）年 4 月 1 日現在では 260,047 人となっています。

市域は、昭和 7 年の市制施行当時は 1,050ha でしたが、昭和 29～32 年の 1 町 7 村の合併により現在の市域が確定し、6,788ha となりました。

<都市計画区域の状況>

平塚市全域にあたる 6,788ha が都市計画区域となっています。この区域は、市街地として積極的に整備する市街化区域 3,084ha と、市街化を抑える市街化調整区域 3,704ha に分けられます。

J R 東海道新幹線以南は、概ね市街化区域となっており、J R 東海道新幹線以北は、一部の地域に市街化区域はあるものの、市街化調整区域が主であり、良好な農地とまとまった緑地が広がっています。

<自然地形の構造>

広域的にみると、市の北西方向に丹沢山地を擁し、市の東西には相模川と金目川が流れ、この下流域に発達した平野部を、高麗山から続く丘陵と台地が取り囲んでいます。地形のつくる景観的なまとまりでは、隣接する市町と一体的にとらえる視点が必要です。

<水系>

河川は、一級河川の相模川が東側に、金目川、渋田川、鈴川などの金目川水系河川が市内中央部を流れています。また、海岸線は、およそ4.8kmの幅で相模湾に面しています。

<土地利用の状況>

土地利用の特徴は、住宅地や商・工業地などの都市的土地利用と、農地などの自然的土地利用がほぼ均衡する状況にあります。

景観的なまとまりをもった大きな空間領域としては、西部から北部の丘陵地域、北部の田園地域、南部の市街地地域に区分できます。



図 土地利用の状況

<平塚八景>

平塚市の代表的な景観は、「平塚八景」として、市民に広く紹介され親しまれています。

- ① 八幡山公園
- ② 七国峠・遠藤原
- ③ 金目川と観音堂
- ④ 霧降りの滝・松岩寺
- ⑤ 湘南平
- ⑥ 森の前鳥神社
- ⑦ 湘南朝来
- ⑧ 平塚砂丘の夕映え



2. 平塚市の景観特性

平塚市内の景観資源調査をはじめ、市民アンケート調査結果（平成 17 年 8 月実施）やタウンミーティング結果（平成 18 年 2 月実施）などを踏まえて景観の現状を把握し、平塚市の景観特性を整理しています。

（1）景観の特徴を際立たせる 3 つの視点

景観特性の整理にあたっては、平塚市の景観の特徴を際立たせるために、「自然地形の目鼻立ちを特徴付ける景観」「平塚市の成り立ちの表れた景観」「人々の活動が彩る暮らしの景観」という 3 つの視点を設けています。

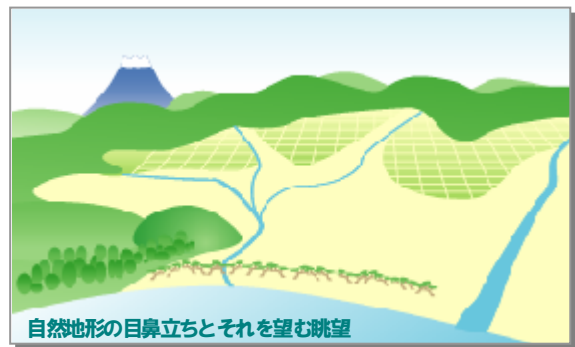
そのうえで、各視点から捉えることができる景観のまとまりを「景観類型」として整理し、さらに景観類型を特徴付けている個別の要素を「景観要素」として整理しています。

□ 3 つの視点

◇自然地形の目鼻立ちを特徴付ける景観

海岸から丘陵まで多様な地形の特徴を有する平塚市では、自然地形が景観の骨格（ベース）をかたちづくっています。平塚市の景観の特徴を際立たせるためには、こうした自然地形（大地）を尊重した景観づくりを進め、目鼻立ちを特徴付けていくことが重要です。

また、自然地形の目鼻立ちの表れた眺望を活かしていくことも大切です。



◇平塚市の成り立ちの表れた景観

江戸時代からの長い歴史を反映して、市内には、平塚市の成り立ちを今に伝える都市の記憶や暮らしの記憶が、自然地形（大地）の上に重層的に蓄積しています。こうした都市の記憶や暮らしの記憶を活かした景観づくりを進め、個性と潤いある街並みを形成していくことが重要です。



◇人々の活動が彩る暮らしの景観

市民の日々の暮らしの中での営みは、まちなみに季節の彩りがあふれた、魅力的な表情を与えます。こうした暮らしの視点から景観を捉え、生活系の景観づくりの活動として市民全体に広げていくことが重要です。



(2) 景観類型と景観要素

① 自然地形の目鼻立ちを特徴付ける景観

「自然地形の目鼻立ちを特徴付ける景観」の視点から、自然地形の骨格をかたちづくる自然系の景観類型と、そうした骨格を望む特徴的な眺望系の景観類型を整理することができます。

<自然系の景観類型>

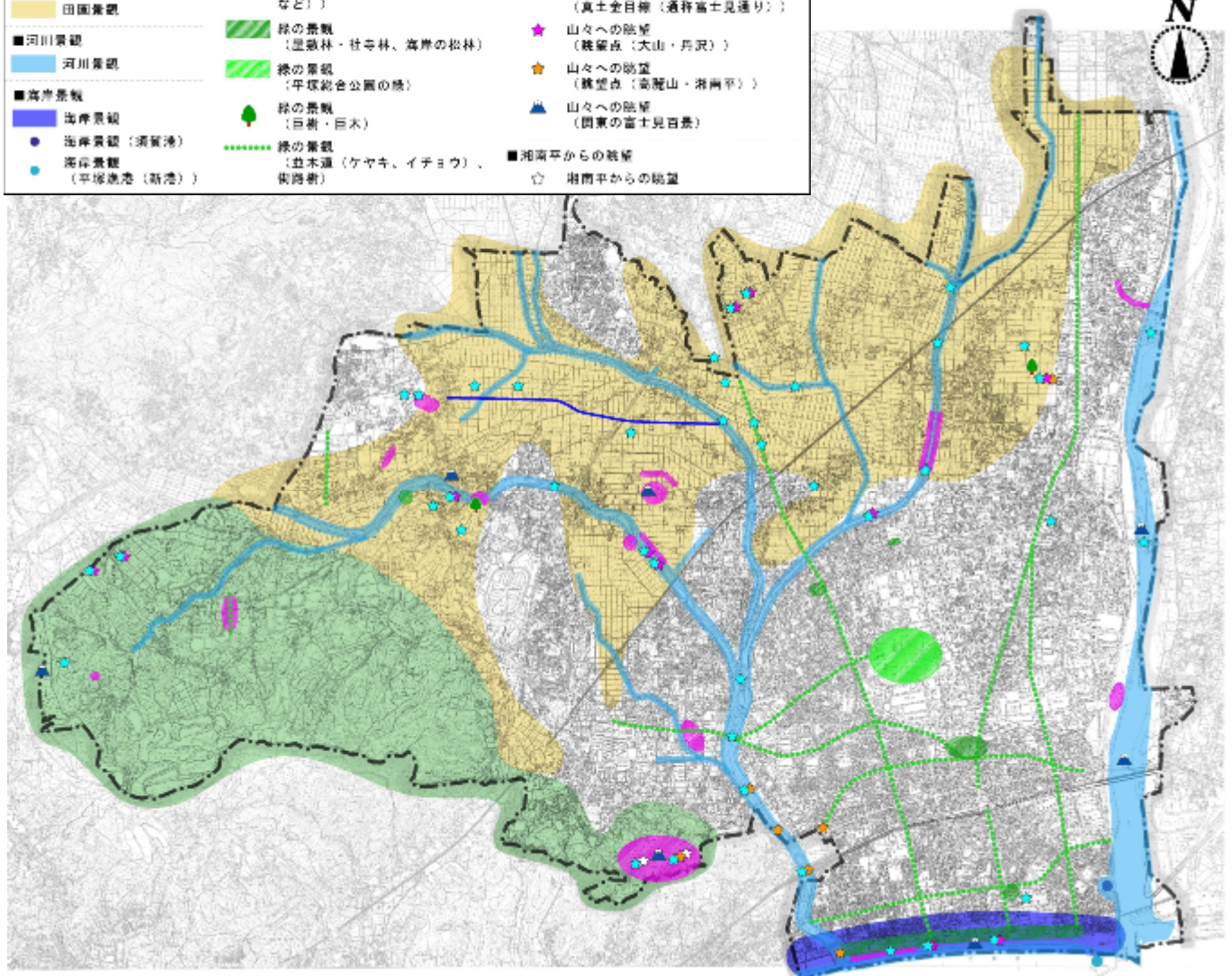
- 湘南丘陵を縁取る連続した緑が創出する「丘陵地景観」
- 東海道新幹線以北に広がる農地が創出するのびやかな「田園景観」
- 雄大な流れの相模川と表情豊かな中小河川が織り成す「河川景観」
- 相模湾を望む開放感ある「海岸景観」
- 季節感あふれた四季折々の多様な緑が演出する「緑の景観」

<眺望系の景観類型>

- 多様な自然地形の骨格を反映した、高麗山や富士山、大山や丹沢連峰など「山々への眺望景観」
- 平塚市をとりまく自然地形を一望し、市内外の多くの人々に親しまれる「湘南平からの眺望景観」

凡 例

■丘陵地景観	■緑の景観	■山々への眺望
■丘陵地景観	■緑の景観 (樟並木・桜の名所、紅葉の名所、 花の名所(ウメ、アジサイ、花鐘 など))	★ 山々への眺望 (眺望点(富士山))
■田園景観	■緑の景観 (里山林・杜松林、海岸の松林)	— 山々への眺望 (真土堂目録(通称富士見通り))
■田園景観	■緑の景観 (平原総合公園の緑)	★ 山々への眺望 (眺望点(大山・丹沢))
■河川景観	■緑の景観 (日樹・巨木)	★ 山々への眺望 (眺望点(高麗山・湘南平))
■河川景観	■緑の景観 (並木道(ケヤキ、イチヨウ)、 復興街)	▲ 山々への眺望 (関東の富士見目録)
■海岸景観		■湘南平からの眺望
■海岸景観		☆ 湘南平からの眺望
● 海岸景観(須賀湾)		
● 海岸景観(平塚漁港(新港))		



② 平塚市の成り立ちの表れた景観

「平塚市の成り立ちの表れた景観」の視点から、時代の蓄積から表れた歴史系の景観類型と、都市活動がかたちづくる都市系の景観類型を整理することができます。

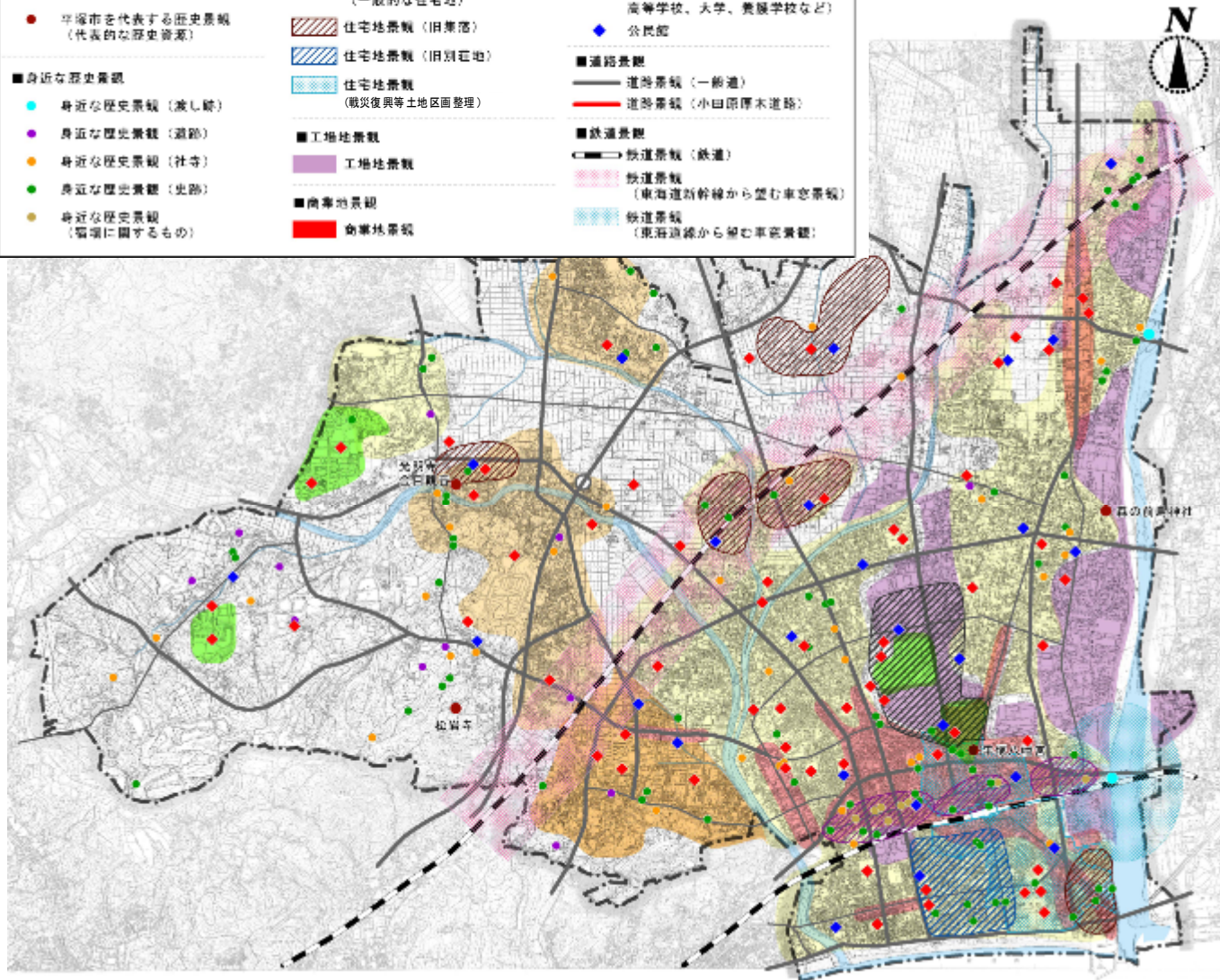
<歴史系の景観類型>

- 江戸時代から続く平塚市の歴史を象徴する歴史資源が織り成す「平塚市を代表する歴史景観」
- 地域で大切にされてきた歴史資源が個性を特徴付ける「身近な歴史景観」

<都市系の景観類型>

- 成り立ちを反映した様々な顔を持つ「住宅地景観」
- 平塚市の発展を支えてきた「工業地景観」
- 暮らしを支える商業地の個性豊かな賑わいあふれる「商業地景観」
- 中心部に集積する大規模な公共施設や地域の拠点となる小中学校、公民館などが創り出す「公共施設景観」
- 国道や幹線道路、シンボルロードやコミュニティ道路など沿道の地域特性を引き立てる「道路景観」
- 東海道線や東海道新幹線の車窓から望む平塚市を印象付ける「鉄道景観」

凡例



③ 人々の活動が彩る暮らしの景観

「人々の活動が彩る暮らしの景観」の視点から、暮らしの景観やゆとりの景観といった、平塚市に暮らす人々の日々の営みが支える生活系の景観類型を整理することができます。

<生活系の景観類型>

- 生垣や庭づくり、自宅周辺の道路の清掃など平塚市に暮らす人々の日々の営みや、七夕祭りや地域ごとの祭事・イベントなどの活動が創り出す「暮らしの景観」
- 周辺と調和し、周辺の魅力を高める広告物や公共サイン、パブリックアートなどが創り出す、まちなみにアクセントを与え、ほっと一息つくことのできる「ゆとりの景観」



○七夕まつり



○公園愛護活動



○馬入のお花畑



○道路沿いの彫刻（董平）

凡例

- 地域住民の取り組みが支え、四手を廻る生活景観
- 七夕祭り景観
- 地域の祭事やイベント
- 生活系（平塚八景）

